

分化する良性腫瘍と考えられているが、管状アポクリン腺腫 (p.416 参照) との異同について議論が続いている。

6. 結節性汗腺腫 nodular hidradenoma

顔面、頭部に好発する単発性の皮内結節。腫瘍細胞は、暗調で細長い核をもつ紡錘形細胞と、円形の核をもつ透明細胞とが種々の割合で存在する。後者が目立つものを透明細胞汗腺腫 (clear cell hidradenoma) と呼ぶ。エクリンないしアポクリン系の分化を示す良性腫瘍と考えられている。ときに悪性化することがあり、悪性結節性汗腺腫 (malignant nodular hidradenoma) と呼ばれる。

7. 皮膚混合腫瘍 mixed tumor of the skin

同義語：軟骨様汗管腫 (chondroid syringoma)

青壮年の顔面 (上口唇、鼻、頭部) に好発する、比較的硬い皮内結節ないし皮下結節 (図 21.19)。下部は可動性を有することが多い。1～2層の壁細胞で囲まれた管状構造をとる上皮性組織と、粘液様および軟骨様の間葉系組織とが混在してみられることが特徴である。断頭分泌や毛包系、脂肪細胞への分化がみられることもある。エクリンおよびアポクリン汗器官由来の良性腫瘍とみなされる。まれに癌化する。

8. アポクリン汗嚢腫 apocrine hidrocystoma

アポクリン汗器官系腫瘍。中年以降の眼囲、顔面、耳、頭皮部に単発するドーム状に隆起する透明ないし青色調で直径数 mm ～ 2 cm の小結節 (図 21.20)。真皮内に巨大な嚢腫構造を認め、アポクリン分泌を示す1層の円柱状細胞とその外側に位置する筋上皮細胞から構成される。通常自覚症状はない。患者が希望すれば外科的切除を行う。

9. 円柱腫 cylindroma

日本人にはほとんどみられない。思春期の頭部などに、1～10 cm 大で半球状ないしは軽度有茎性、正常皮膚色～褐色の腫瘤が通常多発する (図 21.21)。頭部全体を侵し、ターバンを巻いているような外観を呈することがある [ターバン腫瘍 (turban tumor)]。まれに単発例も認める。多発型は常染色体優性遺伝を示し、多発性家族性毛包上皮腫 (p.409 参照) と同

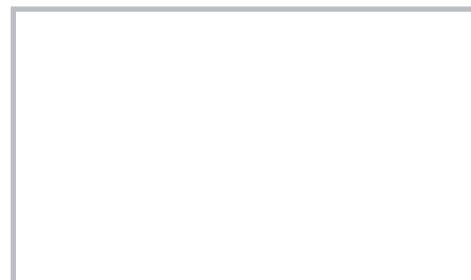
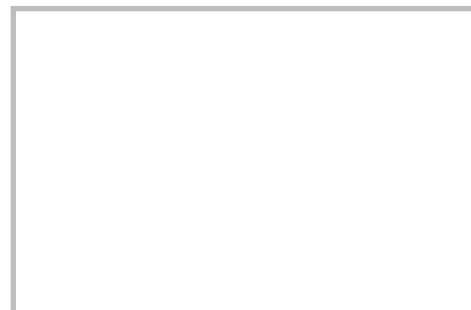
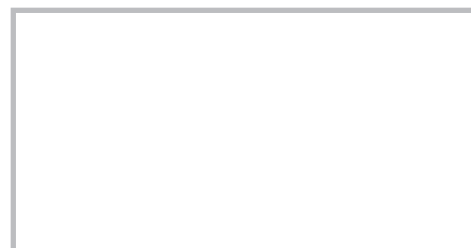


図 21.19 皮膚混合腫瘍 (mixed tumor of the skin)

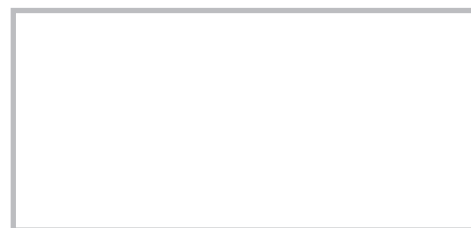


図 21.20 アポクリン汗嚢腫 (apocrine hidrocystoma)

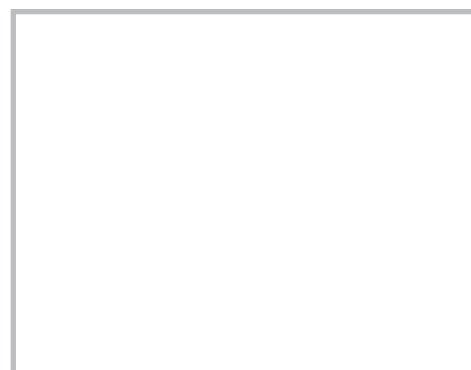


図 21.21 円柱腫 (cylindroma)



図 21.22 乳頭状汗管嚢胞腺腫 (syringocystadenoma papilliferum)

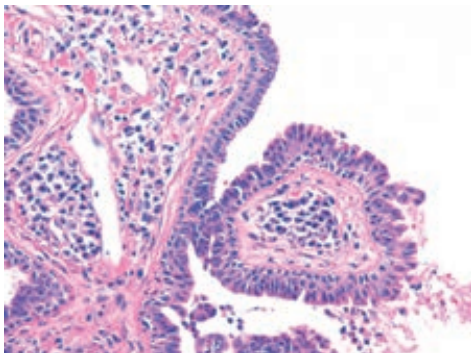
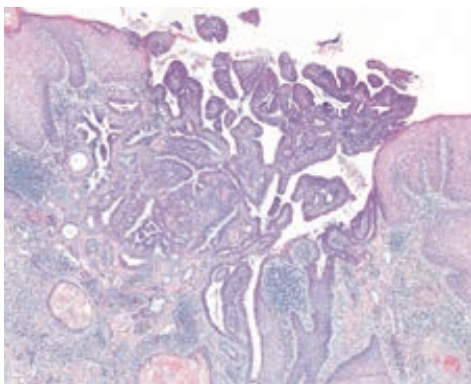


図 21.23 乳頭状汗管嚢胞腺腫の病理組織像

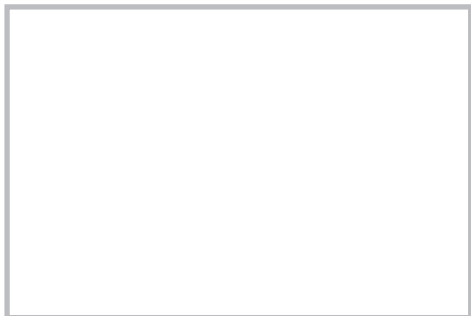


図 21.24 乳頭部腺腫 (adenoma of the nipple)

ブルーク スピーグラー
Brooke-Spiegler 症候群
(Brooke-Spiegler syndrome)

MEMO

様に *CYLD* 遺伝子の異常が同定されている。汗腺系への分化を示す腫瘍細胞の集塊が、巣状にジグソーパズルのように配置する。まれに悪性化し、悪性円柱腫と呼ばれる。

10. 乳頭状汗腺腫 hidradenoma papilliferum

女性の外陰部に好発するドーム状の小結節で、びらんや出血を伴いやすい。肉芽組織に類似する。病理組織学的にはアポクリン分泌像を示す腺上皮細胞の密な乳頭状増殖をみる。アポクリン汗腺腫瘍の代表例。

11. 乳頭状汗管嚢胞腺腫 syringocystadenoma papilliferum

小児の頭部や顔面に好発する疣状結節^{ゆうじょう}で、表面は紅色で、ときにびらんを伴う（図 21.22）。アポクリン汗器官性過誤腫で、脂腺母斑に続発することが多い。病理組織学的には内腔側に高円柱状細胞、外側に立方体状細胞の2層の管状構造を示し、間質には著明な形質細胞浸潤を伴う（図 21.23）。

12. 管状アポクリン腺腫 tubular apocrine adenoma

多くは頭部に好発し、脂腺母斑から生じることもある。直径1～2 cmの正常皮膚色～褐色の結節。病理組織学的には、乳頭状エクリン腺腫（p.414 参照）と同様に多数の小嚢腫と乳頭状の上皮増殖がみられるが、断頭分泌の像を伴う。

13. 乳頭部腺腫 adenoma of the nipple

同義語：erosive adenomatosis of the nipple

乳頭に生じる良性の腫瘍（図 21.24）。びらんや滲出液を伴う場合が多く、乳房 Paget 病や乳管癌との鑑別を要する。病理組織学的には密な乳頭状増殖を伴う管腔構造がみられ、断頭分泌^{パジェット}が観察される。乳頭部の乳管由来の良性腫瘍である。治療は外科的切除であり、取り残しがあると再発する。